

平成 30 年 第 3 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

平成 30 年 3 月 9 日 (金)

開会午後 1 時 00 分、閉会午後 2 時 03 分

II 場所

教育委員会室

III 出席委員

2 番	山崎 弘一	3 番	町野 利道
4 番	藤重 佳代子	5 番	村上 美也子
		教育長	渋谷 克人

IV 説明出席者

教育次長	山下 康二	教育次長	坪池 宏
教育企画課長	五十里 栄	生涯学習・文化財室長	菊池 政則
教職員課長	廣島 伸一	県立学校課長	本江 孝一
小中学校課長	金谷 真	保健体育課長	秀永 倫明

V 傍聴人数 1 人

VI 会議の要旨

午後 1 時 00 分、渋谷教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

(平成 30 年 2 月 13 日開催の平成 30 年第 2 回富山県教育委員会会議録)

会議録閲覧

渋谷教育長から可否を諮ったところ、全員異議がなく承認した。

2 議決事項

議案第 7 号 平成 30 年度富山県教育委員会重点施策に関する件
教育企画課長から説明し、原案のとおり可決した。

3 報告事項

- (1) 臨時代理について (平成 30 年 2 月富山県議会定例会に付議する事案に対する意見に関する件)
教育企画課長から説明した。
- (2) 平成 30 年度富山県立学校入学者選抜の志願状況及び受検状況等について
県立学校課長から説明した。
- (3) 平成 29 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について
保健体育課長から説明した。

4 その他

今後の教育委員会等の日程について
教育企画課主幹から説明した。

5 議決事項

午後 1 時 32 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書の規定に基づき、議案第 8 号については委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。
議案第 8 号 教育職員の人事異動に関する件

6 議事

○議決事項について

議案第7号関係

〔村上委員〕

- ・学校の体育とかスポーツの充実のところのどこかに含まれるのかなと思うのだが、スポーツのイベントや部活動の中で心臓突然死、特に高校生の部活で時折見られるので、年1回やっているAEDの講習だが、それを必ず子どもたち自身ができるようにしていただきたい。1年に1回だと私たちも医療機関であるのでやるのだが、1年に1回だとあまり身に付かない。特に高校男子、部活なんかは学期ごととか、子どもたちだけでもできるくらいの訓練をしておくべきかなと。

〔保健体育課長〕

- ・高体連と連携して充実させていく。

〔教育長〕

- ・高校のAEDは確かPTAの方々からご提供いただき、しかも古いものについては更新していただいている。大変な金額だが、それを効果的に使えるようにというご指摘をいただいたので徹底していきたいと思っている。

○報告事項について

報告事項（2）関係

〔町野委員〕

- ・定時制の募集定員が840名で志願者が308名ということで、倍以上違うのだが、これはどこの掛け違いでこれだけの大きな差が出ているのか。

〔県立学校課長〕

- ・ほぼ例年これくらいである。各定時制高校には普通科の他に職業科も設けてあり、そこに入学者選抜でやってくる生徒もいるが、残念ながら全日制の課程で途中で転学をするという生徒さんを受け入れたりしている。そうしたこともあり、普通科以外の学科も設置しているのだが、例年これくらいの募集になる。なお、この後二次募集もしていく。

〔町野委員〕

- ・二次募集で入る人も結構いるのか。

〔県立学校課長〕

- ・昨年のデータは今手元にはないが、全日制の課程の合格発表が3月15日にあり、その後ももちろん全日制の二次募集に回る生徒さんもいれば、定時制のほうに回るお子さんも若干いる。

〔町野委員〕

- ・特別支援学校の場合は志願者数が募集定員の半分で、ここもボタンの掛け違いは相当大きく許容してやっていかななくてはならない事情があるのかなと思うのだが、定時制の場合はそこまであるのか、ちょっと疑問があった。

報告事項（3）関係

〔山崎委員〕

- ・これまでのいろんな取組みの効果があり、順位が上がったという話があったが、この資料は今までやってきたことの成果の一つの表れを見て取る資料だと思っていいのか。もう一つ、全国平均との比較について、その中に順位も出ており、本県の状況・程度を知る一つの物差しになると思うのだが、それをもって単純に良し悪しを簡単に判断できない事例だと思う。ただ小学生について上体起こしが非常に全国平均を下回っているということで問題視されていたが、その差は大して大きくないような気はするのだが、その反面、反復横跳びと20mシャトルラン、立ち幅跳びが小学校についてはいずれも平均よりかなり上回っていると思う。また、中学校についても、反復横跳びではないが、20mシャトルランと立ち幅跳び、これも男子においては平均をかなり高く上回っている。中学校女子については立ち幅跳びだけが高くなっているのだが、いずれにしても3種目には共通するものがあるような気がしてならない。何かその理由が分かれば教えていただければと思う。もう一点、小学校男女、中学校男女とも合計点、順位とも昨年あるいは過去7~8

年比較して上がってきているように思うので、これは色々な取組みの成果だと思うのだが、ただ順位等について飛躍的に伸びたという感じもしないというのも実感かと思う。昨年説明があったかと思うが、体力・運動能力の面において非常に高い子どもたちと逆に一転して非常に低い層があると。二極化という言葉、説明を聞いた。上位層は伸びているのだと思うが、下位層は依然として残っているから差し引きしてそんなに大きな伸びにならないのかなと思うが、そのあたりの実態等が分かれば教えてほしい。

〔保健体育課長〕

- ・この調査だが、おっしゃったようにまずは実態を把握して、それから対応策を示して、それを実践してその結果を検証するという。そのため、いろんな意味合いを持った調査であると考えている。また全国平均を上回るのは小学校においては三つということを言われたが、特に小学生においては約15分の業間運動をほぼ毎日行っている。その中ではまず走運動があり、それが終わった後、走運動以外の簡単なサーキットトレーニング的な活動を行っている。その結果、おっしゃったように20mのシャトルランや反復横跳び、立ち幅跳びが全国に比べ好成績となっているのではないかと考えている。また、中学生においては、これははっきりとは言えないのだが、小学校の貯金がこの3種目あり、ただ中学校に入ると先程も申し上げたが、まず業間運動がなくなる。特に運動する、しないの二極化が進むということで、平均を大きく上回るものが減っているのではないかと考えている。特に中学生女子では二極化が大変激しいものであり、平均を大きく上回るものが一つになったのではないかと考えている。特に最後、下位層に関してだが、現在県では「みんながチャレンジ3015」というプログラムを全小学生を対象に行っているが、これは昭和59年に始まったものであり、前の通りにやっている。そのため、運動が嫌いな子にとっては、どうしても取っ付きにくいものがだんだん増えてきたのではないかと。そういう風に考えており、来年度そのプログラムを見直すこととしている。その中でもっともっと運動が好きになるプログラム、あるいは継続してできるようなプログラム、あるいは先程申し上げた本県の弱いところを伸ばすようなプログラムを入れて、新しく作成しようと考えている。

午後2時03分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。